

“つらかった”子育て実体験を 悩めるママたちのために

芽室町 子育て応援隊にじまる

十勝管内芽室町内にある保健センターの一室に幼児から小学生の子供たちを連れた母親たちが集ってきた。「誕生学」という耳慣れない言葉をテーマにした講座を聴くためだ。誕生学とは、妊娠・出産の知識や命の大切さを伝える生涯学習プログラム。10組の親子が、講師で誕生学アドバイザーの高田めぐみさんの話を静かに聴き入っていた。

お腹の中で赤ちゃんが大きくなる様子を、パネルで子供にも理解しやすいよう易しい言葉で語りかけ、人形の赤ちゃんや骨盤の模型を使ってどのように命が誕生するかを説明する。「お母さんの命の部屋の中で命が始まったときには、どれぐらいの大きさ？」と高田さんが質問すると、子供たちは「これぐらいの大きさ」と手で示す。高田さんが赤ちゃんの大きさをお米や、紙に針の糸で通した穴の大きさであることを示すと「小さい」と子供たちもびっくり。赤ちゃんが生まれるまでをドキュメンタリーで追った育児DVDでは、赤ちゃんが生まれる瞬間の映像に「わー、すごいね」と声をあげていた。

こうした講座を「きらきらママ講座」と題し、開催しているのが芽室町内の子育て支援団体「子育て応援隊にじまる」。2012

年の11月に設立され、メンバーは代表の嶋野奈津美さんを含めた芽室町在住の3人。3人とも子供がいる専業主婦で、嶋野さん自身も1、3、6歳の子供がいる。

「きらきらママ講座」は母親や妊婦に向けたもので、テーマは誕生学のプログラムにある男の子の体と心の発達に関する知識を学ぶ「母のための男の子カラダ教室」や、助産師を講師にした周産期ケアなど。嶋野さんたちが、公益財団法人キリン福祉財団の「キリン・子育て公募事業」に応募したところ助成が決定。2013年度に年間30万円の助成金を得たため5月から月1回のペースで定期的を開催している。参加費は1回300円から500円ほど。



助産師さんを講師に招いた出産についての講座には若いママたちの姿も

■ 妊娠中からのお友達づくりの 場にしてほしい

「にじまる」を始める以前から嶋野さんは子育て支援活動に熱心だった。それは2009年にさかのぼる。ボランティアで10人ほどの子育て支援サークル「なごみ」をつくり、町からの助成金をもとに活動していた。町で発行し、母親たちがボランティアで引き継ぎながら製作していたイベントカレンダーを4年間担当。その後、「なごみ」はメンバーの転勤などで解散してしまったが、特にこの活動に思い入れが強かった嶋野さんは活動を継続、個人で誕生学の講演会を開くほどだった。

そもそも、嶋野さんが子育て支援活動を始めたきっかけは、自身の「すごくつらかった」子育て経験から。鹿児島出身の嶋野さんは縁あって遠く離れた芽室町に嫁いだが、知り合いもなく頼る実家もない。お産で体力にダメージを受け精神的にも落ち込んでいる中で始まった不眠不休の子育て。

「日中は話す相手もなく、もくもくと子育てをしていることがつらくてきつかったですね。それが同じようなお母さんの仲間ができてから、子育ての負担がスーッと軽くなったのです。私が経験したこんな気持ちを子育てでつらい思いをしているお母さんたちにも伝えたいと思い、妊娠中からのお友達づくりの場になればと活動を始めました」

嶋野さんのこれまでの活動も全て子育ての実体験での悩みから生まれたものだという。

前述の誕生学は、嶋野さんに2人目の子供がお腹にいたとき、上の子供から「赤ちゃんはどこから来るの？」と聞かれ、返事に窮したことが始まり。たまたま新聞の記事で誕生学という言葉を知り、実際にその講座を聴きに行き、感銘を受け、みんなに広めたいと感じたという。



きらきらママ講座の命の話には子供たちも真剣に聞き入った

講座に参加する母親のために同じ芽室町の子育て支援組織「育児ネットめむろ」に託児を依頼、「託児は小さな子供をもつ母親にとって悩みの種。参加者の中で申し込みがあった方には低料金で利用してもらい、ママだけでゆっくり話を聴けるように工夫しています」（嶋野さん）

そのほかにも乳幼児の予防接種の内容を掲載して日程を書き込める欄などを設けたA3両面の「めむろ予防接種スケジュールシート」を制作し500部を町内に配布。これも嶋野さんが予防接種の日程調整の難しさを感じ、自作していたものをほかの母親たちにも使ってもらおうと企画したものだ。

6月に市内の小規模ホール「めむろード」で行われたファミリーコンサートも、音楽に触れ合う時間がなかなか取れない小さな子をもつ親子に向けて昼に開催した。

このコンサートでは音更町出身でギターの弾き語りをしながら全国を旅する女性シンガーソングライター、流(ながれ)さんが演奏し、スライドに絵本を映し出しながら朗読を行った。親子 77 人が集まるなど盛況だったが費用は、町民活動支援センター「めむろまちの駅」の助成金とチケット代、大人 1 人 1000 円(子供は無料)ですべてまかかった。

「コンサートは夜に行われることが多いのですが、3 歳までの子供を連れて夜に外出するのは難しい。外出できたとしても後ろ髪ひかれる思いになります。子供と一緒に日中リフレッシュして欲しいという気持ちを込めてお昼に開きました」

■ 子育てと活動の両立に悩み

活動が続けていく中で課題の多さにも気づいたという。働く妊婦も参加できるようにと講座の日曜開催も実施したことがあるが、「土日は主人が家にいて外出が難しい」とそれがかえってネックとなったことも。妊婦を対象に、これから始まる子育ての知識や赤ちゃんとゆっくりお腹の中で触れ合える時間を大切にしてほしいことを趣旨にした講座を予定しても、期限が迫っているのに肝心の妊婦が集まらず、急遽母親も対象に加えたこともあった。

「インターネットで『妊婦、イベント』

と検索すると『土産』という言葉がたくさんでできます。妊婦のイベントには、企業も宣伝も兼ねておむつの試供品やパンフレットを袋に詰めてお土産として渡すようなのです。そういうことがないと妊婦さんはなかなか参加しないということもわかりました。イベントを企画するときは色々考慮しなければいけないなと感じました。ホント課題だらけですね」



流さんを招いたファミリーコンサートには沢山の親子が集まった

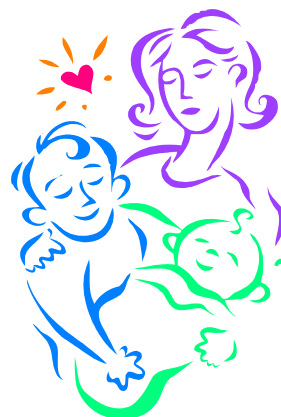
嶋野さんにとっての悩みは、手伝ってくれる母親たちが少なくなってきたこと。「にじまる」を存続するかどうかにも迷いがあるという。

「『にじまる』を立ち上げてから様々な活動をしてきましたが、子育て支援活動は子供が巣立つにつれて母親も仕事を始めたり、子供が小学校にあがると、学童保育の手伝いをしたりして幼児のための活動をする人が少なくなるのです。今は、メンバーが足りず忙しくなりすぎて私自身の子育てがおろそかになっているのが悩み。子供が 3 人もいるから、もっとゆっくり自分の子育てに専念してもいいのかなという気持ちも出てきました」(嶋野さん)

それでも講座やイベントに参加した母親たちの感謝の言葉を聞くと、もうしばらく頑張ろうという気持ちになるそうだ。

「『ありがとう』『助かっています』と声を掛けられると、やはり誰かがこうした企画を続けないと子育てで悩んでいるお母さんに救いの手を差し伸べられない」（同）

迷う気持ちと寄り添いながらも嶋野さんは誕生学の講座を年1回にして活動を継続、「子供たちが巣立ってからは本腰を入れたいですね」と語っている。



■ 連絡先

〒082-0813 芽室町東めむろ3条南1-2-11

子育て応援隊にじまる

代表 嶋 野 奈津美

TEL/FAX:0155-62-6244

Email:satsuma5@amber.plala.or.jp